

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セカンドプレイス株式会社 Toybox		
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	R6年12月1日		～ R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	リハビリ職の人数が多く、医療的側面から評価、目標設定、活動の提供ができる。	5領域に加え、ICFの視点から総合的にお子さんの全体像を把握している。専門的に必要な環境調整や関わりを実施している。	リハビリ職を中心に他職種と連携し、それぞれの専門知識や技術をより掛け合わせて幅の広い支援を実施していく。(個別カンファの充実、活動カンファの充実)
2	本人・ご家族のニーズに合わせた支援を提供できる。	個別支援計画書と日々の様子を元にお一人お一人の単月目標を設定し、支援に活かしている。また、支援の振り返りと今後の取り組みを出勤しているメンバー全員で毎日検討している。	親御様とコミュニケーションをとる機会を現状より増やしていく。(定期面談や家族イベント等)
3	子どもたちの自己選択・自己決定を大切に活動の内容を決めている。	活動の内容は児童中心の話し合いで決定し、専門的に必要な環境調整や関わりを追加して支援を展開している。	自己選択・自己決定する機会・仕組みを支援の中にさらに作っていく。(新しい支援の仕組み作り)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	開所間もないこともあり、通所している子どもたち中心の取り組みに注力していた。	課後児童クラブや児童館との交流の必要性がある場合は、随時計画・実施していく。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた取り組みが少ない。	今年度は、ご家族向け・関係機関を対象としたイベントを計画・実施したため、地域向けのイベントは開催しなかった。	次年度の年間計画に入れていく。
3	各マニュアルを職員や家族等に周知ができていない。	マニュアルを話題に出す頻度が少なく、スタッフ間、ご家族に共有できていない。	定期的なマニュアルの読み合わせ、周知をしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 セカンドプレイス株式会社 Toybox

公表日 令和7年 2月 28日

利用児童数

8人

回収数

7枚

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7				広いスペースで走り回れて本人的にもストレス発散になっていると思います。	今後も広いスペースを活用して支援の幅を広げていきたいと思っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7				何人いるかは分かりませんが、適切だと思っています。	配置基準を満たす人員を確保しています。現在は常勤3名、非常勤2名が配置されています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7				綺麗で楽しい環境だと思います。トイレは少し子どもには怖いかもしれませんが、行く機会は少ないと思いますので気にしていません。	トイレは大人用のトイレを道具等を使用して活用しております。お子さんの恐怖心が強い際はさらに工夫していきたいと思っています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5			2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4			3		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	1		1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		1	1	保育園のお遊戯会に向けて協力していただき助かっています。	園生活でのお困りごとがあった際は何なりとご相談ください。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6		1			
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4		1	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6	1			LINEで相談できる場があり、助かっています。	お困りごとがあった際は何なりとご相談ください。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7				皆さん、優しく共感していただき、周りに相談できる人もいないのでありがたいです。	温かい言葉ありがとうございます。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		3	3			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	1		3	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6	1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1	1		5	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	1		5	もしもの時はどこに避難するのか知っています。有事の際は国分シビックセンターに避難いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	1		3	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				皆さんに心を開いていると思います。ありがとうございます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6			1	楽しみがあると着替え等を自らしてくれてのですが、療育の日は自らしてくれません。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				本人が楽しんでいるので満足です。ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 セカンドプレイス株式会社 Toybox

公表日 R7年 2月 28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4	スタッフ教育を推進し、一人ひとりのできない業務を減らしていく。	・人員配置は満たしているが、余裕はないため、増員していきたい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	段差については、注意すべき箇所として意識してもらいため、無くさない方向でいる。	・段差がいくつかある点
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎日のように業務改善を行っており、スタッフ一人一人が意見を出せる機会を作っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			開所初年度のため機会なし。今後取り組んでいきたい。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日のように業務改善を行っており、スタッフ一人一人が意見を出せる機会を作っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			開所初年度のため機会なし。今後取り組んでいきたい。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・研修の情報を回覧する。 ・社内研修を月3～4会実施。(業務時間内)	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		毎月、個別の目標を検討、再設定している	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		独自の日常生活の評価に加え、ヴァインランドⅡ実施。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		支援ノートを活用し、PDCAサイクルで活動を検討している。	
18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎回、検討。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1		・急いで計画の変更が必要な児童はいなかったため、半年経過又は更新時の変更であった。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		移行支援シートの活用。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		LINEでの情報共有と定期的な面談の実施。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学対応・契約時に実施。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		見学対応・契約時に実施。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5				
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5				

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3		ほとんど機会なし。今後、地域の関わりも積極的に作っていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		マニュアルをスタッフ間で共有できていない。定期的なマニュアルの読み合わせをしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		マニュアルをスタッフ間で共有できていない。定期的なマニュアルの読み合わせをしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	日々の打ち合わせにヒヤリハットの確認を入れ込む。	ヒヤリハットを知らないスタッフがいた。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				